

## 夏の花」 Hana

(写真が8枚観られない時には拡大してご覧ください)

### ひまわり(向日葵)

海神の娘である海の精クリュティエは太陽神アポロンを一目見て恋をしました。しかし、アポロンは女神カイアラピに夢中になっていたのでクリュティエには目もくれませんでした。恋にやぶれたクリュティエは、嘆き悲しみ九日間地面の上に立ち尽くしてアポロンを見つめていました。日の出から、日の入りまでただひたすらアポロン(太陽)を見つめつづけ、その間に口にしたのは、冷たい露と自分の涙だけでした。

そしてクリュティエは、とうとうヒマワリの花になってしまいました。

ヒマワリ “サンゴールド”



## 睡蓮(スイレン)

昔、水の精に三人の美しい娘がいました。母の女神が将来の希望を聞きました。長女は「水の守りに」次女は「水を離れず神の掬のままに」三女は「神と親の命ずるままに」長女を外海の守り神に。次女を内海の主に。三女は泉の女神にしました。内気な末娘も夏の間だけはスイレンの花となって姿をみせます。



## 源平葛(ゲンペイカズラ)

源平の白旗の「白」と平氏の赤旗の「赤」になぞらえた。明治中期に渡来。「萼(ガク)」は純白五枚、その内側に緋紅色の管状花冠があり、紅白の対照が美しい花です。





時計草(トケイソウ)



ポーチュラカ



デュランタ・タカラヅカ



百日紅(サルスベリ)

